

研究会レポート

防災研究会（北海道技術士センター）

有珠山支援サイト【技術相談窓口の開設】

平成12年3月31日 13時10分（頃）に有珠山が約23年ぶりに噴火した。当初からの火山予知が適格で避難も迅速であったことから、幸いなことに人的被害が発生していないが、今なお約8,000人の住民が不自由な避難所生活を余儀なくされている。

5月始めの現時点では、有珠山は西山・金比羅山の両火口群から今も高く噴煙を上げている。噴火活動は小康状態にあり地盤隆起も鈍化しているとはいえ、火山噴火予知連絡会では火山活動は依然として活発であり予断を許さない状態にあると判断している。このレポートが発刊予定の6月下旬にはまさに火山活動がどう変化しているか分からない。

このような不安定な状況が長期戦の様相を呈する中で、各所で社会基盤に関わる被害報告が確認されてきている。JR室蘭線は1カ月ぶりに運転を再開したが、国道・道々の生活路は地盤隆起と4m以上の泥流堆積物で寸断されたままの状態である。ホタテ養殖を中心とした漁業、メロン栽培・家畜などの農業、温泉街の観光などは大きな打撃を受けている。そのため、現地対策本部を中心に、政府をはじめとする関係機関は防災および復興のための対策を講じている。土木学会・地盤工学会などの各学会関係も独自の活動を開始しはじめている。

このような状況の中、(社)日本技術士会北海道支部・北海道技術士センター 防災研究会（会長 能登繁幸）は、緊急幹事を召集し、有珠山噴火活動に際し、近隣地自体の防災および復興に役立つことを模索し、各専門の技術士が科学的対応をすべく“技術相談窓口”を4月21日付けでインターネット上に開設した。

アドレスは以下のとおりである。

(社)日本技術士会北海道支部・北海道技術士センター
ホームページアドレス

<http://www.jsd.ne.jp/~jcea-hokkaido/>
有珠山支援防災メールアドレス

Jcea-bosai@jsd.ne.jp

対応フローを次項に示したが、関係機関からの問い合わせに対し、質問内容により防災研究会・建設系・地盤系・生活生産系の各責任者に配信し、一次対応として専門技術士が回答する。二次対応として、一次対応で全てが難しい場合、EPOを通じて技術士間で議論し合い回答書を作成する。回答内容は、いずれも防災研究会会長・副会長のチェック機構を通過するというシステムである。

支援システムは、技術士が社会に果たす役割であると同時に、技術士センター会員が建設部門をはじめ情報、水道、応用理学、電気、電子、農業、林業、衛生、水産、経営部門など19部門からなる科学技術のエキスパート集団であることを社会にPRする良い機会でもある。

そのため、この機会に多くの技術士センター会員が、“エンジニア・パーク・オンライン（EPO）”に登録し、大いに議論に参加していただきたいと考えている。（メーリングリストEPOに関しては、seigikyoku@jsd.ne.jpまで、問い合わせ下さい）

防災研究会では、平成12年度も、今回の有珠山支援サイト開設を起点に、防災に関する諸問題を研究し、北海道における防災体制のあり方、更には防災型国土のあり方などの提言を目的に、広く活動していきたいと考えている。

（文責：冨澤 幸一）

北海道技術士センター・ホームページ
有珠山支援サイト
実行フローチャート

